

「じぶん史上、最高の夏」が今年の全国高等学校野球選手権大会のキャッチフレーズです。本校の野球部はベスト8まで勝ち進みましたが、あと一步及ばずでした。

それにしても初戦から3試合すべての応援席が満員の応援団で埋まるというのは他の学校では見られないことだったと思います。地域の方との会議の度に、「今年の野球部はどうか？」と尋ねてくださったり、大会前にも大勢の地域のみなさんが練習を見に来てくださったりしました。卒業して数十年経っても夏の大会は必ず応援に来るという方やSNSを使って試合の経過を実況中継のように配信してくださる方。会社の前に大きく応援の看板を掲げてくださった方…。地域のみなさんの熱い声援を改めて実感した大会でもありました。

3回戦が終わって応援席から外に出ると、さっきまでフィールドで戦っていた選手たちが並んで見送りをしてくれていました。そして、その見送りの列の一番最後は主将でした。

お礼を言い、握手をし、時には抱き合いながら、応援が終わって帰るたくさんの人たちの一つ一つの思いに答えていた主将でしたが、最も印象的だったのは、空手道部を引退した3年生が、真っ赤に泣きはらした目で「ありがとう」と言っていた場面でした。応援に来ていた同級生に「ありがとう」と言わしめるものが、確かにあった試合だったと思いました。同じ学び舎で学ぶ者同士の強いつながりがあり、彼の努力や大変さを間近で見ていたから、そして、その姿に力をもらったからこそその「ありがとう」だったのではないかと感じました。そして同時に、この背中には、選手としてのつらさ、苦しさだけでなく、チームとしての苦しさや痛みも背負ってきた背中であると思うと「背番号4」から目が離せませんでした。



吹奏楽部もまた、この夏、大きな大会である全日本吹奏楽コンクールを終えました。4月当初、本当に少ない人数でスタートしたチームに新入部員が入り、今回の挑戦がありました。まるで絵画を一色一色塗り重ねていくように音を重ね合わせたサウンドに聴き入りながら、この人たちは、自分たちの前にある一つ一つの山を乗り越えて、この演奏にたどりついたのだと思いました。そして、チームとして心合わせて演奏するために、やはり、部長は様々に苦勞をし、チームを励まし続けてきたのだろうと思うと、奏でられる音の一つ一つがいとおしく感じられました。

一つずつ区切りをつけて、3年生は自分の進路を切り拓くことに邁進する時期に入っています。「じぶん史上、最高の夏」になるように、自分を鍛え、自分の世界を広げてもらいたいと思っています。

頑張れ！大東高校生！

***8月24日12:50から本校でオープンスクールを開催します。準備の都合がありますので、事前にお問い合わせください。 大東高校(0854-43-2511)**